33 ドローンの活用

ZEN-NOH

〇ドローンは、農薬の散布にとどまらず、肥料散布や水稲種子の直播、生育分析、病害虫の管理、

果樹の交流受粉、鳥獣害対策等においても研究・開発がされており、普及が期待されています

【ドローン活用による生産者のメリット】

・肥料・農薬の適期散布。
・作業時間の大幅短縮。重労働の軽減。
・生産技術の高位平準化。
・作物の生育状況や圃場状態をリアルタイムで把握。
・中山間地の狭小、不正形圃場での散布が可能。
・センシング技術を活用した適期収穫による作物の収量、品質の向上。

【機種選定のポイント】

・作業内容
・栽培面積
・イニシャルコスト
・ランニングコスト
・タンク容量
・飛行時間　・・・etc

【JA全農にいがたの取り組み】

・オペレータ認定取得職員が複数在籍しているので、用途に応じた機種提案や実演、デモフライトが可能です。
・各種実証試験をおこないドローンに関するノウハウを蓄積しています。また、ライセンスの取得助成も実施中です。

【ドローンに関する費用（参考）】

単位：万円（税抜）

項目	技能講習	機体一式	年間償却費
費用	21～25	200～400	80～100

・金額は目安ですので、参考としてご確認ください。
・技能講習は、機体別に受講する必要があります。
・減価償却期間は、7年で計算しています。

購入から運用までの流れ

1. オペレータ技能講習会の受講
   ドローンで農作業をおこなうには、ドローンメーカーや専門教習機関の開催する講習会を受講する必要があります。講習内容により費用や期間が異なります。
   ※講習や機体の登録には別途費用がかかります。
2. 機体の購入
3. 飛行許可の申請、飛行計画の登録
   ※購入者本人もしくは販売店等からの代理申請も可能です。
4. 散布
5. 定期点検、飛行実績報告等

ドローンライセンス取得助成あります！

詳しくはJA農機センターとJA全農にいがた農業機械課までお問い合わせください。